

＜福島第一原子力発電所プラント状況等のお知らせ＞
(4月13日 午後6時現在)

平成23年4月13日
東京電力株式会社
福島第一原子力発電所

福島第一原子力発電所は全号機（1～6号機）停止しております。

1号機（停止中）

- ・ 3月12日午後3時36分頃、直下型の大きな揺れが発生し、1号機付近で大きな音があり白煙が発生しました。水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- ・ 3月23日午前2時30分頃、給水系から原子炉への海水注入を開始しました。
- ・ 3月25日午後3時37分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っております。
- ・ 原子炉格納容器内に水素ガスが蓄積している可能性があることから、酸素濃度の上昇を防止する観点より、4月6日午後10時30分より格納容器内に窒素ガスの注入に関わる弁操作を開始し、4月7日午前1時31分より、注入を開始しました。

2号機（停止中）

- ・ 3月15日午前6時頃に圧力抑制室付近で異音が発生、同室の圧力が低下。
- ・ 3月26日午前10時10分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っております。
- ・ 4月12日午後7時35分、タービン建屋の立坑（トレンチ）にある高レベル滞留水を、復水器へ水中ポンプにより移送を開始しました。

3号機（停止中）

- ・ 3月14日午前11時1分頃、1号機同様大きな音とともに白煙が発生したことから、水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- ・ 3月25日午後6時2分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っております。

4号機（定期検査で停止中）

- ・ 3月15日午前6時頃、大きな音が発生し、原子炉建屋5階屋根付近に損傷を確認。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないと考えております。

5号機（定期検査で停止中）

- ・ 安全上の問題がない原子炉水位を確保しております。
- ・ 3月19日午前5時、残留熱除去系ポンプ（C）を起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- ・ 3月20日午後2時30分、原子炉は冷温停止状態となりましたが、3月23日午後5時24分ごろ、仮設の残留熱除去海水系ポンプの電源を切り替えた際、自動停止しました。その後、3月24日午後4時14分頃、交換したポンプを起動し、同日午後4時35分頃、原子炉の冷却を再開しました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないと考えております。

6号機（定期検査で停止中）

- ・ 安全上の問題がない原子炉水位を確保しております。
- ・ 3月19日午後10時14分頃、残留熱除去系ポンプ（B）を起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- ・ 3月20日午後7時27分、原子炉は冷温停止状態となりました。
- ・ 代替の残留熱除去海水系ポンプ2台について、3月25日午後3時38分および午後3時42分に仮設の電源から本設の電源に切り替えを行いました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないと考えております。

使用済燃料プールの冷却作業

- ・ 4月13日午前0時30分から午前6時57分まで、コンクリートポンプ車による4号機への放水を行いました。
- ・ 4月13日午後1時15分から午後2時55分まで、2号機について、仮設の電動ポンプによる淡水の注入を行いました。
- ・ 今後も使用済燃料プールの状況を確認しながら、必要に応じて放水・注水したいと考えております。

その他

- ・ モニタリングカーによる発電所構内（屋外）の放射性物質（ヨウ素等）の測定値が通常値より上昇しており、以下のとおり、原子力災害対策特別措置法第15条第1項の規定に基づく特定事象（敷地境界放射線量異常上昇）が発生したと判断しています。
 - ・ 3月12日午後4時17分に判断（MP4付近）
 - ・ 3月13日午前8時56分に判断（MP4付近）
 - ・ 3月13日午後2時15分に判断（MP4付近）
 - ・ 3月14日午前3時50分に判断（MP6付近）
 - ・ 3月14日午前4時15分に判断（MP2付近）
 - ・ 3月14日午前9時27分に判断（MP3付近）
 - ・ 3月14日午後9時37分に判断（発電所正門付近）
 - ・ 3月15日午前6時51分に判断（発電所正門付近）
 - ・ 3月15日午前8時11分に判断（発電所正門付近）
 - ・ 3月15日午後4時17分に判断（発電所正門付近）
 - ・ 3月15日午後11時5分に判断（発電所正門付近）
 - ・ 3月19日午前8時58分に判断（MP5付近）

なお、測定値が500 μ Sv/hを超過した後、500 μ Sv/h付近で下降、上昇を繰り返した場合、同一事象が継続していると考え、改めて原子力災害対策特別措置法第15条第1項の規定に基づく特定事象（敷地境界放射線量異常上昇）が発生したという判断は行わないこととします。ただし明らかに異常な値が計測され、同一事象でないことが明らか場合は、速やかに判断するとともにお知らせしてまいります。

- ・ 放射性物質放出の恐れがあるため、半径20km以内の地域住民に対して国から避難指示が出されており、また半径20kmから30kmまでは屋内退避指示が出されています。
- ・ 4月1日午前11時35分頃、米軍のはしけ船のホース手直し作業のため、岸から船に乗り込む際、作業員1名が海に落下しました。すぐに周囲の作業員に救助され、けがおよび外部汚染はありませんでしたが、念のため、4月9日、ホールボディカウンタによる測定を実施した結果、4月12日、内部取り込みはなしと評価しました。

- 4月2日より、集中環境施設の建屋内に溜まった水を4号機のタービン建屋内に移送しておりましたが、4月4日、3号機のトレンチの立坑の水位が4月3日より約15cm上昇しており、経路は不明であるものの、4号機のタービン建屋内の水が3号機のトレンチに流れている可能性も否定できないことから、念のため、4月4日午前9時22分、4号機のタービン建屋内への移送を停止しました。なお、現在の3号機のトレンチの立坑の水位は、移送停止時の水位から大きな変化はなく、安定しております。
- 4月4日午後7時3分から集中廃棄物処理施設内に溜まっている低レベルの滞留水（約1万トン）について、海洋への放出を行いました。現在、評価・確認中。また、5号機および6号機のサブドレンピットに保管されている低レベルの地下水（延べ1,500トン）についても、4月4日午後9時から海洋への放出を行いました。放出量は約1,323トンです。
- 4月5日午後3時から午後4時30分まで、発電所南側の防波堤に専用港内からの汚染水の流出を防ぐため、破損していた鋼製の止水板の代わりに防波堤周辺で大型土のうによる止水工事を開始しました。引き続き止水作業を継続してまいります。また、4月11日午前8時45分から午前10時45分まで、専用港内から放射性物質を含む水の流出を防ぐため、発電所南側の防波堤付近に約120メートルのシルトフェンス（二重）の設置作業を行いました。さらに、4月13日午前8時45分から午後1時50分まで、3、4号機スクリーン前面についてもシルトフェンス（二重）の設置作業を行いました。
- 4月11日午後5時16分頃に発生した福島県浜通りを震源とするM7.1の地震後の状況は以下の通りです。

一部の外部電源が停止したことから、1～3号機の原子炉への注水が一時停止しましたが、外部電源の復旧に伴い、午後6時4分頃、原子炉への注水を再開しました。各号機とも主要パラメータ等に異常はありませんでした。

また、1号機原子炉格納容器内への窒素ガスの注入は停止しましたが、同日午後11時34分、窒素ガス封入を再開しました。

なお、1～3号機立坑水位に大きな変動ないこと、および構内の作業員にけが人等が発生していないことを確認しました。
- 4月12日午後2時7分頃に発生した福島県浜通りを震源とするM6.3の地震後の各号機のプラント状況等については、地震発生前後で異常は確認されませんでした。また、作業員の安全が確認されました。
- 4月12日午前6時38分頃、南側放水口付近にある1～4号機放水口サンプリング建屋のバッテリーを収納している盤から発火が確認され、自衛消防隊による初期消火活動を行うとともに、午前6時45分頃双葉消防本部へ連絡しました。その後、午前9時12分頃、双葉消防本部による鎮火が確認されました。

本事象による外部への放射能の影響、ならびに原子炉等の冷却機能への影響はなく、周辺環境のモニタリング値に変動はみられません。
- 4号機使用済燃料プール内に保管されている燃料の状況把握のため、4月12日、使用済燃料プール水のサンプリングを実施しました。今後、核種分析を実施する予定です。
- 安全の確保に向け全力を尽くしてまいるとともに、引き続き周辺環境のモニタリングを継続・監視してまいります。

以 上